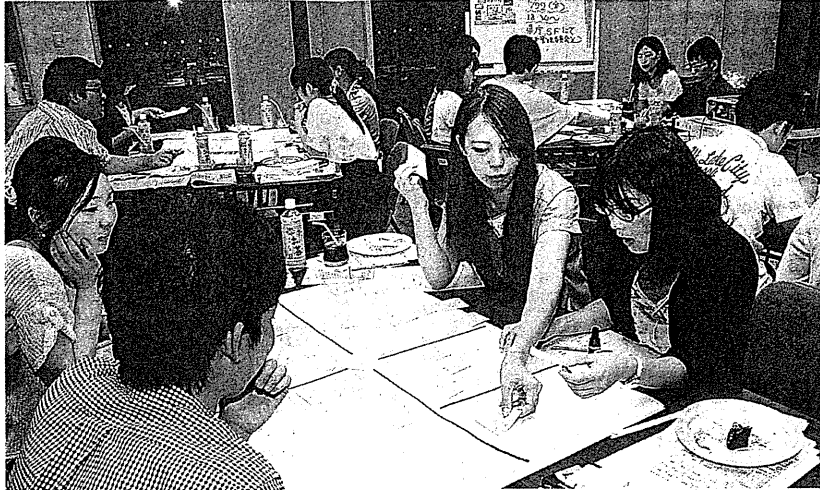


候補者と対話 / 家庭の話題に

若者の投票率上げよう



若者の投票率アップの方策について意見交換する若者たち＝9日、福井市の県生活学習館

県選管初「選挙カフェ」

学生らが知恵

来春の統一地方選を前に、低迷が続く若者の投票率について若者自身が改善策を考える「選挙カフェ」が9日、福井市の県生活学習館で開かれた。参加者からは、選挙前に立候補者と若者が対話する機会を設けたり、子どものころから政治に興味を抱くよう家庭での教育を充実させるなど、具体的な提案が数多く出された。(野田勉)

投票率向上を目指す県選管として、すべての班が「無関心」を挙げた。その対策として、立候補者との交流イベントを開き、若者向けの政策を公約に盛り込んでもらうといった提言が出た。交流の様子は動画配信サイトや会員制交流サイト(SNS)を使って

情報共有するとした。

「大学などに政治家を呼び、考えを直接聞く機会を増やすべきだ」「家族でニュースについて話す時間をつくるなど、子どもが社会や政治に関心を持つよう大人の役割も重要」といった意見もあった。

投票所については「入りづらい」「暗い」といった印象が強いとして、投票所でコンサートや抽選会などのイベントを開いたり、大学で期日前投票を行うといったアイデアも出された。

カフェの会場には選挙で使う投票箱が持ち込まれ、どの班の発表が最も良かったかを模擬投票した。投票が初体験の参加者もいて、選挙への関心を高めていた。

県選管によると、県内20代の投票率は、2011年の知事選が35・80%(全体58・05%)、12年の衆院選が34・25%(同61・75%)、13年の参院選が42・58%(同53・78%)と低水準にある。

投票率向上へ斬新発想

県選管企画 福井で20代が懇談

県内20代の若者が集まり、若者の投票率アップについて考えるイベントが9日、福井市十六条町の県生活学習館(ユ・アイ)で開かれた。若者と政治家との距離を縮めるため、居酒屋と意見を聞く場を設けては、こういった若者ならではの発想や意見が出された。

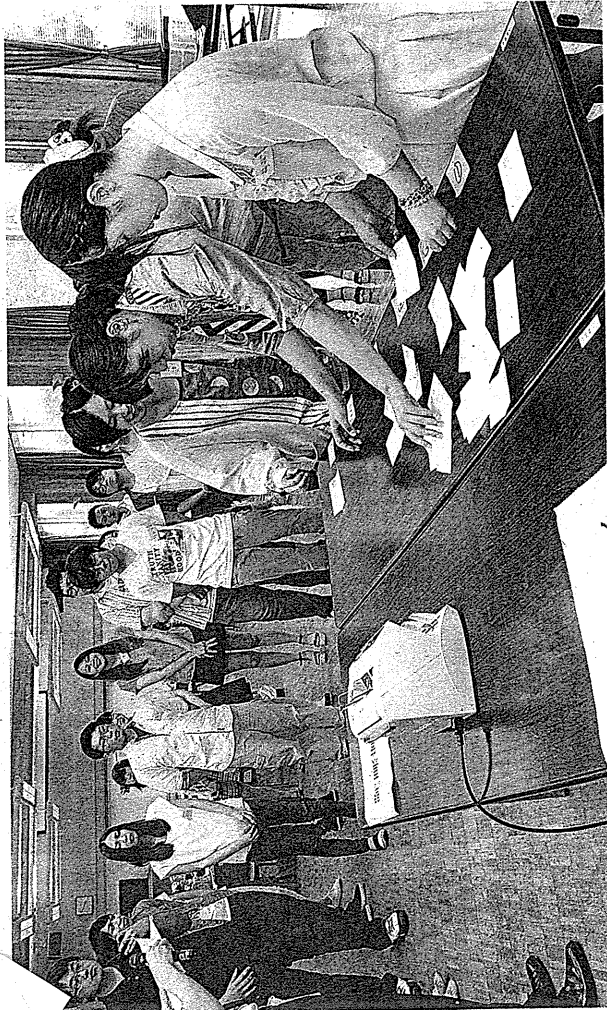
県選挙管理委員会が企画し、学生や社会人十八人が参加。六グループに分かれ、「若者はなぜ投票所不足を運ばないか」「投票率向上のための対策は」をテーマに話し合った。各グループからは、投票しない理由として「政治や選挙に関心がない」「投票所のイメージが悪い」「行くのが面倒

倒」「政治家に不満や不信感がある」などの意見が出た。

対策としては大学に政治家を呼んで身近に話せるようにする「居酒屋などで若者の意見を聞いてもらい、政策に反映してもらい」「投票所を大学内に設けたり、近くで祭りやイベントを開いたりする」「インターネット投票にする」などの斬新なアイデアが出た。

最も効果的な対策を出したグループに投票する模擬投票もあった。参加者らは実際に使用している投票用紙を受け取り、投票台で記入、開票作業も体験した。

(正津聡)



開票作業を模擬体験する参加者＝福井市の県生活学習館で